




～ コンプライアンスの基本を身につけ、実務で実践・指導する方のための決定版講座！ ～

コンプライアンス基礎コース

受講期間 12 カ月 / 添削回数 5 回 / 受講料 33,000 円（税抜）（36,300 円（税込））

※ 団体割引:32,670 円(税込)(法人単位 申込者数 5 名以上)

- ビジネスマナー、経営倫理、コンプライアンス、内部統制、リスク管理、企業法務等の基礎を習得し、実務で実践・指導したい方、スキルアップを図りたい方に最適です。
- 部署のコンプラ推進、内部統制の構築、部下への倫理・コンプラ教育の手法も学べます。
- 全 5 回 75 点以上の成績を収めた方は、申請により「**認定コンプライアンスアドバイザー**」資格を取得できます。

	科目	内容	
第 1 回	企業活動とコンプライアンス	コンプライアンスとは何か / 現代企業とコンプラ・企業倫理の重要性 業務におけるコンプライアンスとは	
第 2 回	企業活動とリスクコントロール	株式会社と組織体制 / 内部統制の考え方 / リスクマネジメントの考え方	
第 3 回	企業活動と法	企業と「法」 / 企業活動と取引 / 企業活動と公正な取引 / 企業、消費者・社会 企業と行政	
第 4 回 第 5 回	総合問題		
受講想定者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入社員・若手社員、管理職・職場のリーダー、コンプライアンス担当者など ・ 就職や転職に際してコンプライアンスの基礎能力を証明したい社会人など 		
教材および認定証	基本テキスト 3 冊 	受講ガイダンス / 問題・ 解答用紙 / 質問票 	認定カード・認定証 

<選択式サンプル問題>

【問題】 企業倫理に関する以下の記述の中で最も適切なものはどれか、(1)～(4)から1つ選びなさい。

- (1) コンプライアンスは、企業の社会的な貢献をその考え方の中核に置いている点で、企業倫理とは一線を画したものといえる。
- (2) 法律で厳しく取り締まらない限り、企業倫理を定着させることはできない。
- (3) 企業とステークホルダーとの関係について、一定のルールに従わせることが企業倫理の主要な課題とされる。
- (4) 企業倫理を定着させるためには、従業員に対する倫理教育制度を整備するといった具体的な措置が必要である。

【問題】 コンプライアンス部門と内部監査部門については両者の区別が明確に理解されていない場合があるが、この二つの部門に関する以下の見解のうち適切なものはどれか、(1)～(4)から1つ選びなさい。

- (1) コンプライアンスに関する内部監査とは、コンプライアンス部門内の事務手続きの検査を言う。
- (2) 内部監査部門長は、独立的な立場からコンプライアンス部門長を指揮・監督する。
- (3) 内部監査部門に対する監査はコンプライアンス部門が行うべきである。
- (4) コンプライアンス部門と内部監査部門を両方所管する取締役が存在することも許される。